

Jackie's Miracle

監訳者：近藤裕子



現在バベル翻訳大学院にて「文芸1-2」講座を担当。

エンターテイメント、ノンフィクションを中心に翻訳多数。

監訳に『リーヴィング・エデン』 『歴史に「もし」があったなら』

『雪花と秘文字の扇』 『グリニッジ大冒険』

『Me, Inc.～エッ、私って会社なの？』 (以上バベル・プレス)

これは、アメリカの若い黒人女性、ジャックイータに起きる奇跡の物語です。ジャックイータの物語は、彼女がミシガン州の刑務所を早期出所しようという朝から始まりますが、この書き出しはなかなか魅力的です。次に回想されるジャックイータの生い立ちは、父親もわからないままこの世に生を受け、やがて母親も亡くして、養家をたらい回しにされ、ドラッグ、売春、高校のドロップアウトなど、お決まりの負の連鎖。でも出所後、保護観察官のマンディに出会って、彼女の運命は大きく開けます。マンディから教わった〈超前向きな生き方〉のおかげで負の連鎖を断ち切り、すてきな伴侶に巡り会ったジャックイータは、ジャッキー（そういえば、若きケネディ大統領夫人、あの憧れのファースト・レディの名前はジャッキーでしたね）と改名し、まず不動産取引で大成功を収めます。それからの彼女の半生は、まさにアメリカンドリームを絵に描いたようなサクセスストーリーですが、その過程は不思議に現実的で、ディテールが実にいきいきとしています。「アメリカ（ひょっとしたら世界中）の女の子の夢って、つまりはこういうことなのね」と実感できますし、「ああ、よくやったわね！」と両手を広げて、母親のように、彼女を抱きしめたくくなります。ジャッキーの素直で一生懸命でオープンなところがそうさせるのかもしれない。

実は、この物語の根底にある考え方は、**the law of attraction** です。日本語では「引き寄せの法則」と訳され、本書のマンディによれば、アメリカの伝説の大富豪たちは皆、実は、この法則の隠れた実践者だったとのこと。

この物語は、奇跡三部作の第1作目ですが、内容的には最後に位置するものです。主人公のジャッキーは文章を書くことが得意で日記をつけていたという設定ですが、三人称で語られるジャッキーの物語も、まるで彼女自身の語り口を映しているかのように、簡潔でスピーディで無駄のないタッチです。翻訳はとてもおもしろい作業になりそうですね。